

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	株式会社 サザンクロス		
事業所名	グループホーム 宮ノ里 2号館		
所在地	〒025-0002 花巻市西宮野目第13地割121番地2		
自己評価作成日	令和2年月日	評価結果市町村受理日	令和2年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、全体目標、個人目標を掲げ、達成に向けて取組んでいる。今年度は、個性や人格を尊重し、ケアプランを把握した対応をこころがけている。また、職員間の連携で事故を減らすよう取組んでいる。毎月、スタッフ会議では、議題を職員から募り、日頃気付いている問題の共有と改善に向けた取り組みを検討している。勉強会も毎月、行っているが、内容やすすめ方は、改善が必要との声があり、課題と捉えている。入居者のご家族からの要望などを気軽に話していただけるよう努力している。職員は、20歳台から70歳台と幅広い。職員の離職率が改善されているので職場環境の整備を今後も続けていきたいと考えている。毎月、個別に発行し、郵送しているお便りは、ファイルに保管しているご家族も多く、写真を楽しみにして下さっているようだ。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内西宮野目地区にある2ユニット(1号館、2号館横並びの平屋)の事業所である。今年から、統括管理者の下に、両ユニットそれぞれにリーダーを配置し、安定的な利用者支援を図る体制を整備した。また、今年度の目標を「利用者の個性や人格を尊重してケアプランもきちんと把握し対応する」「職員間で連携し事故を減らす」とし、事業所理念に近づくための中間評価も予定している。運営推進会議の場で事業所の課題を率直に提示し、委員の理解と協力を得る努力をしており、2名の委員から災害時の駆け付け協力の申し出を得られた。事業所前を流れる瀬川の遠隔監視カメラの設置、(仮称)防災対策協議会設置の提案等着実に防災対策が進められている。コロナ禍の本年は、地域や事業所の事業が殆ど中止となっているが、9月開催の敬老会には感染防止に配慮しながらミニ演奏会を予定したり、タブレットを利用した遠隔地家族との面会の実施等、工夫を凝らした利用者支援が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の利用者にできることをやっていただく」を理念に生活の支援を行うようにしている。日常気づいた事を記録し確認し合いながら支援に努めている。	両ユニット共通の事業所理念「一人一人の利用者に、できることをやっていただく」は、大きな文字で事務所内に掲示されており、職員に浸透していると管理者は認識している。基本理念に近づくための今年度の目標について、10月頃に中間評価の予定としている。できることが少なくなっている利用者への働きかけや支援内容が課題となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際、地域の踊りのボランティアの方々に来て頂いている。施設周囲を散歩し、近隣住民とあいさつを交わし、時には切り花を頂く等交流がある。コロナ禍により	地域の会議や一斉清掃等への参加を出来るだけ心がけている。町内会に加入し、徒歩5分位にある神社の年会費も支払い、祭り時には2名程度の利用者が参加出来る。コロナ禍により、今年度の事業は殆ど中止されているが、9月に開催する敬老会に2名の音楽ボランティアが来所し、エレクトーンやクラリネットの演奏会を予定している。地域からは公民館長さん等2名が、畑の草取りや草刈り作業への定期的な協力をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の取り組み検討事項である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々により意見を頂き、ケアや行事、環境整備に活かしている。会議にて入退居状況や事業活動等を中心に報告。取り組みの意見交換をしているが、今年度はコロナ禍の影響により実施出来ず。	今年度第1回目の会議はコロナ禍により中止したが、7月には本社役員も出席し開催できた。開催前に事前に議題をお知らせすることにより、委員の方々から積極的な発言を載っている。委員より事業所の内情を知りたいとの意見が出され、緊急時の職員駆付けに時間かかる等の課題を示したところ、地域の委員2名から、かけつけ応援の申し出があり、緊急連絡網の名簿登録にもつながった。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて自事業計画やサービスの様子を伝えている。市の担当者より情報提供を頂いている。当方より相談したいことは、電話にて相談・指導を受けている。	最近、施設の空き状況や入居照会の連絡が入ることが多い。運営推進会議終了後に、長寿福祉課や花巻中央地域包括センターの職員と相談等の時間を設けている。介護保険制度上の事項は、随時電話等で確認をしている。市で実施している介護保険事業所に関するWEB情報に、毎月FAXを送り施設の空き情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉によるものを含め拘束の無いよう取り組んでいる。やむを得ない場合は、家族に同意を得るようにしている。毎月実施している「勉強会」にて3月に1度「身体拘束をしないケア」を題材に勉強している。	昨年11月に受けた実地指導時の助言を契機に、身体拘束適正化委員会の委員に、運営推進会議の委員を委嘱し、会議を開催している。身体拘束に関する勉強会は年4回開催しているが、2号館では日常のケアの場面で問題が出てきた時は、その都度ミニカンファレンスを開催し対応方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で声を掛け合ったり情報交換をする機会の場で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度等についての知識に差異があるので勉強会等を活用し見識を深めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等については重要事項説明書にて窓口を明記し対応している。また、都度対応も行っており、速やかに意見を反映できるよう図っている	家庭事情もあり、参加が難しい家族もあるが、管理者は面会時等に家族に積極的に働きかけ、複数の家族が運営推進会議の委員となっている。コロナ禍の中での面会制限により、遠隔地にいる家族からタブレットを使用しての面会希望が出され対応した。両ユニットともに居室担当者があり、利用者の毎月状況報告書を写真入りで作成し、家族への連絡や意向把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議に於いて、職員の意見を募り議題として挙げる等、運営に反映できるよう努めている。 また、各々職員が進言できる土壌である。	日常的な問題や利用者への対応、軽微な物品購入等があれば、職員は管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーと相談し解決している。会社の代表者が来所した際には、職員との意見交換も行っている。前回外部評価以降、居室の冷房設置、車椅子対応車両の購入が出来、次は屋外避難路の舗装を要望している。月1回のスタッフ会議に参加出来ない場合は、書面で意見を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等への参加や、施設内での勉強会にて研鑽させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会への参加を通じ、他施設、および活動の状況をスクーリングなどにより把握し、自紙施設の活動に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基本情報、およびそれに付随する各種書類を参考にし、ご本人様への傾聴等を実施し、安心して生活して頂ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との面談において、意向等を聴取し、入居後のケアへの反映が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、およびご家族との面談にて必要性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活において、ご自身でできることは勿論、職員から入居者に依頼をして作業をして頂くなど、自尊心を醸成するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご本人様の日頃の様子を写真を添え報告している。その中で施設よりご家族に相談したい件等も取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との雑談等の中で想起させる場面はあるが積極的なアプローチは出来ていない。	地元地域からの入居者は無く、合併前の旧町、旧村からの入居者が殆どであり、馴染みの場所を訪ねるには時間がかかる利用者が殆どである。高齢化や地元が遠隔地ということもあり、家族や親族以外の知人の来訪は殆ど無く、お盆の外泊は両ユニットで1名であった。	利用者の希望に沿った馴染みの人や場の継続支援について工夫され、可能な事から取り組まれることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に交流できる関係を作られた場合は良いが、相互に敬遠している場合は困難である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の入院後等に際し、ご家族様より介護、その他の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前情報等においてやご本人の言動等にて把握に努めている。	両ユニット夫々で把握した利用者情報は記録簿に記載し、月の中間で交換し確認することとしている。本音で話された内容や入居前情報と異なる内容等重要な内容は、話した通りの言葉や事実の記録を心がけている。入居され、自宅より事業所の方が心地良いと思われる利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際しての経過記録等を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者により歩行状態の差異が有り、実情に即した用具(杖・歩行器・車椅子)等を使用している。心理面については事象について介護記録等に残す等の対応をとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて支援方法を検討し、対応している。	両ユニット夫々に計画作成担当者がいる。2号館では、モニタリングは居室担当者が行い、モニタリング結果と他職員の意見も踏まえ、新たな介護計画を作成している。1号館では、モニタリングを口頭等で確認としており、今後は2号館の流れに倣って介護計画を作成することとしている。	介護計画は、1号館2号館共通のプロセスで作成し、利用者の力を活かせるような介護計画を目指し、多様な活動の提供を全職員で取り組んで戴きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄介助の方法や嚥下困難による食事形態の変更等日々の入居者の変化を共有し実践に役立てている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多岐に渡るニーズにはお答え出来ていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや催しを見学するなど文化に触れたり地域の方の協力を得て野菜作りなどを行っているが今年度は中止しているものも多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ、通院時の付き添い支援等しており、症状の説明、日常生活の様子等の伝達に努めている。	原則、入居前からのかかりつけ医に家族対応で受診して頂いている。月1回総合花巻病院からの訪問診療を利用している利用者は、両ユニットで8名である。受診結果については、家族から聞きとった内容を「通院、受診記録」に記録し、職員間で共有している。訪問診療への切り替えは、主治医が遠隔地にあり対応が大変との理由が殆どである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常における変化等を看護職と連携をしている。また、週1回の訪問看護時に入居者の状況の変化を報告し助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各医療相談室等と連携を図っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家屋の希望を確認、主治医・家族・施設職員がカンファレンスを行い方針を共有した支援に努めている。	重度化したにも関わらず、市内の特別養護老人ホームへの入所が円滑に進まず、家族から要望を受けた際に看取りを行っている。医療連携契約を結んでいる看護師は、総合花巻病院医師と確り連携しており心強い。看護職の職員が1名おり、介護スタッフは日常的に相談や助言も受けられ、外部の医療職との連絡や確認も円滑に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を実施するなど職員の対応力アップに今後励んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施等により概ね身に付けている。また、地域の方々への協力も仰いでいる。	ハザードマップ上は水害地域の指定はされていないが、地域住民より事業所前を流れる瀬川の氾濫が以前にあったとの指摘があり、本社で川の橋脚に遠隔監視カメラを設置し、24時間本社で監視し、管理者のスマホでも確認出来る仕組みを導入している。今年度、地域の消防団等との協力体制を構築すべく「西宮野目瀬川流域防災対策協議会(仮称)」設置の働きかけを行い体制整備に着手した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の声かけや注意により実施できるよう心掛けている。	一人の人間として人生の先輩として尊重する対応を心がけている。トイレ誘導等デリケートな支援については、他の言葉に置き換えたり、他の利用者に聞こえないよう耳元で話す等の配慮を日常的に行っている。職員の気になる対応があった時には、気づいた都度、或いは「ちょっと」等の声かけで、利用者の面前を避け気づきを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動等にて希望を把握し、行事やレクリエーションに取り入れているが積極的な働きかけは出来ていない。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不定期ではあるが、近隣への外出(散歩)を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の静養や季節感のある着替えを結いする等支援している。また、月1回外部より理髪店に 来所頂いて入居者の調髪等をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事環境を整えて美味しく食べられるようテーブル拭きや茶わん拭き下膳のお手伝いなど一緒に行って頂く。お楽しみメニューや誕生会でのケーキの提供をしている。週2回配達される食材への日付貼りをして頂きメニューのイメージを抱いて頂いている。	選択メニューを取り入れたお弁当の日やお楽しみ食の提供等、食べたい物を決めるという自己選択機会を設けている。季節ごとの行事食の他、時々おやつの中には7~8種類の品数を用意し「おやつバイキング」を行っている。食事づくりの手伝いまでは出来ていないが、下げ膳、食器拭き等は積極的に行っている利用者が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配属していない為、少々難しい。が、1週間、および月単位でメニューの偏りが無いよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた器具の使用(歯ブラシ)を使用し毎食後行っている。自力困難な方には状況を見て介助、また必要に応じて訪問歯科の助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンの把握に努めている。また、ポータブルトイレの使用において地震での排泄を支援している。	寝たきりや看取りの利用者を除き、日中はトイレでの排泄支援を基本としている。排泄パターンにより、パットの種類を使い分けたり、定時誘導をしている。便秘により嘔吐したり、不機嫌になったりする利用者もあり、下剤を使用しながら調整を試みている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録と共に食事、および水分の摂取量を確認している。特に水分量には留意し、整腸の為ヤクルトの飲用をしている。便秘・自然排便困難な方については主治医に相談し整腸剤・下剤の内服、必要時浣腸にて対応している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を指定はしていないが、業務の都合上、個々の希望やタイミングでの入浴は実施出来ない。	気分や体調をみながら週に2回は入浴機会を提供するように心がけている。嫌がる利用者には、「温泉にいきましょう」等と声をかけている。入居時家族から毎日入浴の希望があり対応しようとしたが、利用者が希望しないケースがあった。1号館では、異性介助に配慮している利用者が1名いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々疲労度により時間を制約せず静養して頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各内服薬の効能や副作用を処方時の一覧にて確認をしている。また、服薬箱により誤訳等の無いよう努め、変化については介護記録等に記載するなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除を好まれる方にはほうきにて施設内を掃いて頂いたり、食器拭きや洗濯物干し・畳みなどを行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出(散歩)に出かける機会は設けており、以前と比較し増加したが、個々の希望に沿った外出は出来ない。	日常的な散歩は、前回の外部評価以降、職員の意識も向上し、日常的に励行されている。また、散歩を希望する利用者も増え、車椅子対応車両の購入により戸外に出かける頻度が格段に増え、支援もしやすくなった。希望に沿った外出支援は継続課題としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方については所持して頂いているが、希望による現金の使用は実現できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻度としては多くはないが、希望によりご家族への電話連絡、および連絡をする旨を予めご了承頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、季節を考慮した展示物を配置するなど工夫している。	1号館と2号館は廊下で真っすぐに繋がっており、利用者は自由に両ユニットの出入りが出来る。職員が季節の花を持参して飾り、季節感を味わえる手作りの装飾品を職員と利用者で作っている。訪問時2号館には、ダリアの生花や笹を使った七夕が飾られていた。また、2号館にはホール脇に畳の小上がりがあり、イベント等でのステージとしても活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブルの席の配置について当人同士の相性等を考慮した変更を行う等している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の使い勝手を考慮し、収納家具を持参頂く等している。	入居前の説明時、使い慣れた物品を持参していることをどの利用者家族にも伝えている。2号館にはクローゼットがないため、衣装ケース等を持ち込んでいる利用者が多い。好きな動物の写真入りカレンダーや花等を飾っている利用者もいると、管理者が話してくれた。た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリー、および手すりの設置、自作によるトイレの表記玄関先のスロープ設置、休めるようソファや椅子を配置し、安全に努めている。		